

28-5 資本主義社会における信用制度の役割および社会主義社会と信用・銀行制度

資本主義社会における信用制度の役割

「信用制度は生産諸力の物質的發展と世界市場の形成とを促進するのであるが、これらのものを新たな生産形態の物質的基礎として或る程度の高さに達するまでつくり上げるということは、資本主義的生産様式の歴史的任務なのである。」(大月版『資本論』Ⅲ P562-3)

社会主義社会と信用・銀行制度

「最後に、資本主義的生産様式から結合労働の生産様式への移行にさいして信用制度が強力な槓杆として役だつてであろうということは、少しも疑う余地はない。とはいえ、それは、ただ、生産様式そのものの他の大きな有機的な諸変革との関連のなかで一つの要素として役だつだけである。これに反して、社会主義的な意味での信用・銀行制度の奇跡的な力についてのもろもろの幻想は、資本主義的生産様式とその諸形態の一つとしての信用制度についての完全な無知から生まれるのである。生産手段が資本に転化しなくなれば(このことのうちには私的土地所有の廃止も含まれている)、信用そのものにはもはやなんの意味もないのであって、これはサン・シモン主義者たちでさえも見抜いていたことである。他方、資本主義的生産様式が存続するかぎり、利子生み資本はその諸形態の一つとして存続するのであって、実際にこの生産様式の信用制度の基礎をなしているのである。ただ、あの人気取りの著述家プルドン、商品生産は存続させておいて貨幣を廃止したいと思った彼だけが、無償信用という奇怪なものを、この小ブルジョアの立場のはかない願望の実現と称するものを、夢想することができたのである。」(大月版『資本論』⑤ P783B6-784F5)

【青山の考え】

生産手段が資本に転化しなくなれば、利子生み資本の存在余地はない。しかし、社会主義社会でも、自己資金を超える資金の必要性が生じることは個人を含めてありうる。だから、信用は搾取と収奪の手段としての役割から解放されて存続する。